

(様式第 10)

国がん発 第 295 号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣殿

国立研究開発法人国立がん研究センター  
理事長 堀田 知光 (印)

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
氏 名	理事長 堀田 知光

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院
------------------------

3 所在の場所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1	電話(03) 3542-2511 (代表)
--------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無													
内科と組み合わせた診療科名等														
1 呼吸器内科	2 循環器内科	3 消化器内科	4 血液内科	5 緩和ケア内科										
6	7	8	9	10	11	12	13	14						
診療実績														

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

- (注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。
- (注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 消化器外科    2 乳腺外科    3 呼吸器外科    4 小児外科    5	6	
7            8            9            10            11            12            13	14	
診療実績		

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科
7 産婦人科    8産科    ⑨婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科
13放射線診断科    14放射線治療科    ⑬麻酔科    16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科    2            3            4            5            6            7		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1            2            3            4            5            6            7
8            9            10            11            12            13            14
15            16            17            18            19            20            21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	600床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	172人	103.2人	275.2人	看 護 補 助 者	31人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	0.8人	2.8人	理 学 療 法 士	4人	臨 床 検 査 技 師	61.5人
薬 剤 師	33人	13.9人	46.9人	作 業 療 法 士	1人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	1人	そ の 他	0人
助 産 師	0人	0人	0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	523人	3.9人	526.9人	臨 床 工 学 士	5人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8.9人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	17人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	142.9人
管 理 栄 養 士	7人	1.5人	8.5人	診 療 放 射 線 技 師	61.1人	そ の 他 の 職 員	73.5人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	14人	眼科専門医	1人
外科専門医	26人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	19人
小児科専門医	4人	脳神経外科専門医	4人
皮膚科専門医	2人	整形外科専門医	5人
泌尿器科専門医	4人	麻酔科専門医	7人
産婦人科専門医	4人	救急科専門医	0人
		合 計	98人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	513.5人	0人	513.5人
1日当たり平均外来患者数	1,201.4人	26.6人	1,228.0人
1日当たり平均調剤数	入院550剤、外来198剤		
必要医師数	125人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	18人		
必要(准)看護師数	298人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	216.7 m <sup>2</sup>	鉄骨構造	病床数	8床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 472.42m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	39床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55.46 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	662.94m <sup>2</sup>	鉄骨構造	多項目自動血球分析装置、血液凝固測定装置、全自動免疫化学分析測定装置、全自動化学発光測定装置、生化学用自動分析装置、全自動薬物濃度測定装置、尿自動分析装置			
細菌検査室	161.04m <sup>2</sup>	鉄骨構造	同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、血液培養自動分析装置			
病理検査室	490.59m <sup>2</sup>	鉄骨構造	自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、自動封入装置、密閉式自動固定包埋装置、対面作業用下降流プッシュプル型換気装置			
病理解剖室	142.15m <sup>2</sup>	鉄骨構造	ホルマリン作製装置			
研究室	24,213.909m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート等	研究所棟、疫病ヒトゲノムセンター棟、中央病院内がん対策情報センター一部室			
講義室	742.52m <sup>2</sup>	鉄骨構造等	室数	25室	収容定員	10～20人
図書室	376.64m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	9万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成 26年4月1日～平成 27年3月31日	
紹介率	103.6%	逆紹介率	73.5%
算出根拠	A：紹介患者の数	8,323人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	5,998人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	358人	
	D：初診の患者の数	8,383人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

※ 補足

紹介率が100%を超えている点について：救急患者を除いて99.3%の患者が紹介状を持参しております。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
網膜芽細胞腫の遺伝子診断	7人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん	29人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。	45人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	1人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
食道癌根治的治療後の難治性良性狭窄に対する生分解性ステント(BD-stent)留置術の有効性評価試験	0人
H26年度内に症例数を満たして終了した試験	
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 H26年度は特になし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	10人	・膿疱性乾癬	人
・多発性硬化症	人	・広範脊柱管狭窄症	人
・重症筋無力症	17人	・原発性胆汁性肝硬変	20人
・全身性エリテマトーデス	21人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	2人
・サルコイドーシス	21人	・原発性免疫不全症候群	人
・筋萎縮性側索硬化症	人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	13人	・網膜色素変性症	3人
・特発性血小板減少性紫斑病	36人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	人	・肺動脈性肺高血圧症	人
・潰瘍性大腸炎	72人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	2人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	人
・脊髄小脳変性症	4人	・ライソゾーム病	人
・クローン病	7人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	人
・悪性関節リウマチ	人	・脊髄性筋委縮症	人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	37人	・球脊髄性筋委縮症	人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	人
・後縦靭帯骨化症	4人	・肥大型心筋症	14人
・ハンチントン病	人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	1人	・ミトコンドリア病	人
・ウェゲナー肉芽腫症	人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	10人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	人	・黄色靭帯骨化症	人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	26人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院 入院基本料7対1	・
・ 診療録管理体制加算2	・
・ 急性期看護補助体制加算 3	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 無菌治療室管理加算2	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 病棟薬剤業務実施加算	・
・ データ提出加算2イ	・
・ 特定集中治療室管理料3	・
・ 小児入院医療管理料4	・
・ 歯科外来診療環境体制加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 疾患別リハビリテーション料_脳血管疾患等(Ⅱ)
・ がん患者指導料1・2・3	・ 疾患別リハビリテーション料_運動器(Ⅱ)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 疾患別リハビリテーション料_呼吸器(Ⅱ)
・ 移植後患者指導管理料	・ がん患者リハビリテーション料
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 外来放射線照射診療料	・ 皮膚悪性腫瘍切除術 (悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限)
・ ニコチン依存症管理料	・ 組織拡張器による再建手術 (一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限)
・ がん治療連携計画策定料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)
・ がん治療連携管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1・2
・ 薬剤管理指導料	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 医療機器安全管理料1・2	・ 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・ 腎腫瘍凝固・焼灼術 (冷凍凝固によるもの)
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 内服・点滴誘発試験	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6 (歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ センチネルリンパ節生検(単独法)(併用法)	・ 輸血管理料Ⅰ
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 輸血適正使用加算
・ 画像診断管理加算1	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算
・ ポジトロン断層撮影	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 内視鏡手術用支援機器加算
・ ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・ 麻酔管理料(Ⅰ)(Ⅱ)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 放射線治療専任加算
・ 大腸CT撮影加算	・ 外来放射線治療加算
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 高エネルギー放射線治療
・ 外来化学療法加算1・2	・ 1回線量増加加算
・ 無菌製剤処理料	・ 強度変調放射線治療(IMRT)



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・人工括約筋を用いた尿失禁手術(H24)	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(H24)	・
・CTガイド下気管支鏡検査加算(H24)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	10回 / 1週間
剖検の状況	剖検症例数 28例 / 剖検率 7.60%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
治癒切除不能のstage4大腸がん症例に対する原発巣切除の意義を明らかにする研究 (H25-がん臨床-一般-007)	金光幸秀	大腸外科	17,500,000	補	厚生労働科学研究費
難治性造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植の治療成績向上を目指した未承認・適応外薬のエビデンス確立に関する研究 (H25-がん臨床-一般-012)	福田隆浩	造血幹細胞移植科	27,000,000	補	厚生労働科学研究費
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験 (H24-がん臨床-一般-009)	片井均	胃外科	22,900,000	補	厚生労働科学研究費
肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立 (H23-がん臨床-一般-012)	濱口哲弥	消化管内科	12,700,000	補	厚生労働科学研究費
若年がん患者を取り巻くがん診療・緩和治療支援の政策提言に資する研究 (H24-がん臨床-若手-001)	米盛勸	乳腺・腫瘍内科	4,800,000	補	厚生労働科学研究費
悪性神経膠腫に対するTemozolomideの治療効果を増強した標準治療確立に関する研究 (H23-がん臨床-一般-013)	渋井壮一郎	脳脊髄腫瘍科	11,600,000	補	厚生労働科学研究費
新しい薬物療法の導入とその最適化に関する研究 (H25-3次がん-一般-003)	田村友秀	呼吸器内科	23,600,000	補	厚生労働科学研究費
乳癌患者における妊孕性保持支援のための治療選択および患者支援プログラム・関係ガイドライン策定の開発 (H24-3次がん-一般-010)	清水千佳子	乳腺・腫瘍内科	8,300,000	補	厚生労働科学研究費
小児がんの臨床評価に関する研究	小川千登世	小児腫瘍科	1,940,000	補	厚生労働科学研究費
microRNA阻害剤による骨肉腫がん幹細胞制御を基盤とした新たな革新的がん治療の実用化を目指す前臨床試験 (H24-実用化(がん)-一般-001)	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	100,700,000	補	厚生労働科学研究費
早期乳がんに対するラジオ波熱焼灼療法の標準化に係る多施設共同臨床研究 (H23-臨研推-一般-007)	木下貴之	乳腺外科	37,050,000	補	厚生労働科学研究費

網羅的発現解析を基盤にした新規骨・軟部腫瘍バイオマーカーの探索と治療への応用	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	3,640,000	補委	日本学術振興会
乳腺デジタルトモシンセシスによる乳癌画像診断システムの開発	内山菜智子	放射線診断科	520,000	補委	日本学術振興会
外見関連患者サポートプログラムの有効性の多面的検討に関する研究	野澤桂子	アピアランス支援室	1,690,000	補委	日本学術振興会
転移性脳腫瘍に対する放射線有効例のバイオマーカーの同定	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	2,080,000	補委	日本学術振興会
大腸微小腺腫性ポリープに関する前向きコホート研究	大竹陽介	内視鏡科	390,000	補委	日本学術振興会
乳癌・卵巣癌患者における遺伝相談・遺伝子検査に関する情報提供支援プログラムの構築	清水千佳子	乳腺・腫瘍内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新規モデルマウスによるIDH1遺伝子変異のグリオーマ発生における役割の解明	有田英之	脳脊髄腫瘍科	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝切除術における術中画像ナビゲーション手法の開発	岸庸二	肝胆膵外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
唾液腺腫瘍の分子病理学的診断基準の確立と治療への応用	大友梨恵	病理・臨床検査科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肝移植周術期における酸化ストレスの役割	松崎孝	麻酔・集中治療科	780,000	補委	日本学術振興会
薬物療法により病状進行となる高悪性度乳癌の予測に役立つ分子マーカーの検討	津田均	病理・臨床検査科	1,300,000	補委	日本学術振興会
KIF5B-RET転座陽性肺癌症例の臨床病理像の解析	葛幸治	病理・臨床検査科	1,170,000	補委	日本学術振興会
大腸癌患者における便潜血検査免疫法の診断感度に関する研究	松田尚久	内視鏡科	2,600,000	補委	日本学術振興会

悪性リンパ腫における個別化治療-NF $\kappa$ B刺激と周囲T細胞補助刺激シグナルとの関連	小林幸夫	血液腫瘍科	3,250,000	補 委	日本学術振興会
皮膚がんにおけるテーラーメイド分子標的医療の開発	田中亮多	乳腺・腫瘍内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
高エネルギーX線治療における光核反応の生物学的効果に関する研究	脇田明尚	放射線治療科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
遊離皮弁移植におけるFlow-through吻合の有用性	宮本慎平	形成外科	3,120,000	補 委	日本学術振興会
大腸癌スクリーニングにおける内視鏡の医療経済学的検討	関口正宇	がん専門修練医	2,210,000	補 委	日本学術振興会
microRNA解析を用いた骨肉腫の薬剤奏効性予測バイオマーカーの開発	窪田大介	がん専門修練医	2,080,000	補 委	日本学術振興会
糖尿病患者の周術期血糖変動に関する研究	江木盛時	麻酔・集中治療科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
がん患者の子どもに対する親の療養から死別までの支援のあり方についての研究	的場元弘	緩和医療科	5,460,000	補 委	日本学術振興会
抗がん抗体の適合性評価のための分子イメージング臨床研究	田村研治	乳腺・腫瘍内科	14,000,000	補 委	科学技術振興機構(JST)
粒子線治療における腫瘍の線量応答性観測システムの開発	中村哲志	放射線治療科	650,000	補 委	科学技術振興機構(JST)
卵巣明細胞腺癌に対するテムシロリムスを含む化学療法の有効性及び安全性に関する研究	温泉川真由	乳腺・腫瘍内科	2,000,000	補 委	社)日本医師会治験促進センター
治験実施に関する研究[オラパリブ]	米盛勸	乳腺・腫瘍内科	1,400,000	補 委	社)日本医師会治験促進センター

合計36

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Ueno, Hideki	Natl Canc Ctr, Tokyo 1040045, Japan;	Randomized Phase III Study of Gemcitabine Plus S-1, S-1 Alone, or Gemcitabine Alone in Patients With Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer in Japan and Taiwan: GEST Study	JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,31,13,1640,2013
2	Arita, Hideyuki	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurg & Neurooncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Upregulating mutations in the TERT promoter commonly occur in adult malignant gliomas and are strongly associated with total 1p19q loss	ACTA NEUROPATHOLOGICA,126,2,267,2013
3	Yoshida, Akihiko	Natl Canc Ctr, Div Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	ROS1-Rearranged Lung Cancer A Clinicopathologic and Molecular Study of 15 Surgical Cases	AMERICAN JOURNAL OF SURGICAL PATHOLOGY,37,4,554,2013
4	Matsubara, Akiko	Natl Canc Ctr, Pathol & Clin Labs, Tokyo, Japan;	Frequent GNAS and KRAS mutations in pyloric gland adenoma of the stomach and duodenum	JOURNAL OF PATHOLOGY,229,4,579,2013
5	Tsuta, Koji	Natl Canc Ctr, Div Pathol, Tokyo 1040045, Japan;	The utility of the proposed IASLC/ATS/ERS lung adenocarcinoma subtypes for disease prognosis and correlation of driver gene alterations	LUNG CANCER,81,3,371,2013
6	Nishikawa, G.	Natl Canc Ctr, Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	Frequent GNAS mutations in low-grade appendiceal mucinous neoplasms	BRITISH JOURNAL OF CANCER,108,4,951,2013
7	Nakajima, Takeshi	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Current status of endoscopic resection strategy for large, early colorectal neoplasia in Japan	SURGICAL ENDOSCOPY AND OTHER INTERVENTIONAL TECHNIQUES,27,9,3262,2013
8	Asamura, Hisao	Natl Canc Ctr, Tokyo, Japan;	Radiographically determined noninvasive adenocarcinoma of the lung: Survival outcomes of Japan Clinical Oncology Group 0201	JOURNAL OF THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY,146,1,24,2013
9	Yamada, Yasuhide	Natl Canc Ctr, Tokyo 1040045, Japan;	Leucovorin, fluorouracil, and oxaliplatin plus bevacizumab versus S-1 and oxaliplatin plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer (SOFT): an open-label, non-inferiority, randomised phase 3 trial	LANCET ONCOLOGY,14,13,1278,2013



10	Ohtomo, Rie	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Lab, Tokyo, Japan;	SOX10 is a novel marker of acinus and intercalated duct differentiation in salivary gland tumors: a clue to the histogenesis for tumor diagnosis	MODERN PATHOLOGY,26,8,1041,2013
11	Kondo, Shunsuke	Natl Canc Ctr, Dept Med Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Clinical impact of c-Met expression and its gene amplification in hepatocellular carcinoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,18,2,207,2013
12	Tamura, Kenji	Natl Canc Ctr, Dept Breast & Med Oncol, Tokyo 1040045, Japan;	Cu-64-DOTA-Trastuzumab PET Imaging in Patients with HER2-Positive Breast Cancer	JOURNAL OF NUCLEAR MEDICINE,54,11,1869,2013
13	Yoshida, Akihiko	Natl Canc Ctr, Dept Pathol, Tokyo 1040045, Japan;	Anaplastic lymphoma kinase status in rhabdomyosarcomas	MODERN PATHOLOGY,26,6,772,2013
14	Matsubara, Akiko	Natl Canc Ctr, Dept Pathol, Tokyo, Japan;	Prevalence of MED12 mutations in uterine and extrauterine smooth muscle tumours	HISTOPATHOLOGY, 62,4,657,2013
15	Horinouchi, Hidehito	Natl Canc Ctr, Div Internal Med & Thorac Oncol, Tokyo, Japan;	Long-term results of concurrent chemoradiotherapy using cisplatin and vinorelbine for stage III non-small-cell lung cancer	CANCER SCIENCE,104,1,93,2013
16	Yamada, Masayoshi	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo, Japan;	Long-term outcome of endoscopic resection of superficial adenocarcinoma of the esophagogastric junction	ENDOSCOPY,45,12,992,2013
17	Honda, Kazunori	Natl Canc Ctr, Div Thorac Oncol, Chuo Ku, Tokyo, Japan;	Phase I and pharmacokinetic/pharmacodynamic study of RO5126766, a first-in-class dual Raf/MEK inhibitor, in Japanese patients with advanced solid tumors	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,72,3,577,2013
18	Yamamoto, Seiichiro	Natl Canc Ctr, Div Colorectal Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Laparoscopic Surgery for Stage 0/I Rectal Carcinoma Short-term Outcomes of a Single-Arm Phase II Trial	ANNALS OF SURGERY,258,2,283,2013
19	Masai, Kyohei	Natl Canc Ctr, Div Pathol & Clin Lab, Tokyo 1040045, Japan;	Expression of Squamous Cell Carcinoma Markers and Adenocarcinoma Markers in Primary Pulmonary Neuroendocrine Carcinomas	APPLIED IMMUNOHISTOCHEMISTRY & MOLECULAR MORPHOLOGY,21,4,292,2013

20	Sekine, Ikuo	Natl Canc Ctr, Div Internal Med & Thorac Oncol, Tokyo, Japan;	Risk factors of chemotherapy-induced nausea and vomiting: Index for personalized antiemetic prophylaxis	CANCER SCIENCE,104,6,711,2013
21	Miyamoto, Shimpei	Natl Canc Ctr, Div Plast & Reconstruct Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Combined use of free jejunum and pectoralis major muscle flap with skin graft for reconstruction after salvage total pharyngolaryngectomy	MICROSURGERY,33,2,119,2013
22	Nagao, Tomoya	Natl Canc Ctr, Dept Breast Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Locoregional recurrence risk factors in breast cancer patients with positive axillary lymph nodes and the impact of postmastectomy radiotherapy	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,18,1,54,2013
23	Tanabe, Yuko	Natl Canc Ctr, Dept Breast Oncol & Med Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Paclitaxel-induced peripheral neuropathy in patients receiving adjuvant chemotherapy for breast cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,18,1,132,2013
24	Tada, K.	Natl Canc Ctr, Dept Hematol & Hematopiet Stem Cell Transplantat, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Stenotrophomonas maltophilia infection in hematopoietic SCT recipients: high mortality due to pulmonary hemorrhage	BONE MARROW TRANSPLANTATION,48,1,74,2013
25	Izumo, Takehiro	Natl Canc Ctr, Dept Endoscopy, Resp Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan	The diagnostic utility of endobronchial ultrasonography with a guide sheath and tomosynthesis images for ground glass opacity pulmonary lesions	JOURNAL OF THORACIC DISEASE,5,6,745,2013
26	Yamada, Y.	Natl Canc Ctr, Dept Gastrointestinal Med Oncol, Tokyo 1040045, Japan;	Impact of excision repair cross-complementing gene 1 (ERCC1) on the outcomes of patients with advanced gastric cancer: correlative study in Japan Clinical Oncology Group Trial JCOG9912	ANNALS OF ONCOLOGY,24,10,2560,2013
27	Abe, Seiichiro	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Short- and long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for undifferentiated early gastric cancer	ENDOSCOPY,45,9,703,2013
28	Morizane, Chigusa	Natl Canc Ctr, Tokyo, Japan;	Randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 versus S-1 in advanced biliary tract cancer: A Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0805)	CANCER SCIENCE,104,9,1211,2013
29	Kubota, Daisuke	Natl Canc Ctr, Div Pharmacoprote, Tokyo, Japan;	Gene Expression Network Analysis of ETV1 Reveals KCTD10 as a Novel Prognostic Biomarker in Gastrointestinal Stromal Tumor	PLOS ONE,8,8,,2013

30	Kondo, S.	Natl Canc Ctr, Div Hepatobiliary & Pancreat Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Clinical impact of pentraxin family expression on prognosis of pancreatic carcinoma	BRITISH JOURNAL OF CANCER,109,3,739,2013
31	Nakamura, Harumi	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	Aberrant anaplastic lymphoma kinase expression in high-grade pulmonary neuroendocrine carcinoma	JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY,66,8,705,2013
32	Hojo, Takashi	Natl Canc Ctr, Dept Breast Surg, Tokyo, Japan;	Use of the neo-adjuvant exemestane in post-menopausal estrogen receptor-positive breast cancer: A randomized phase II trial (PTEX46) to investigate the optimal duration of preoperative endocrine therapy	BREAST,22,3,263,2013
33	Kushima, Ryoji	Natl Canc Ctr, Pathol & Clin Lab Div, Tokyo 1040045, Japan;	Gastric adenocarcinoma of the fundic gland type shares common genetic and phenotypic features with pyloric gland adenoma	PATHOLOGY INTERNATIONAL,63,6,318,2013
34	Tsuta, Koji	Natl Canc Ctr, Div Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	Insulin-like growth factor-1 receptor protein expression and gene copy number alterations in non small cell Lung carcinomas	HUMAN PATHOLOGY,44,6,975,2013
35	Yamamoto, Noboru	Natl Canc Ctr, Div Thorac Oncol, Tokyo, Japan;	Phase I study of oral gemcitabine prodrug (LY2334737) in Japanese patients with advanced solid tumors	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,71,6,1645,2013
36	Akiyoshi, Kohei	Natl Canc Ctr, Gastrointestinal Oncol Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	KRAS Mutations in Patients with Colorectal Cancer as Detected by High-resolution Melting Analysis and Direct Sequencing	ANTICANCER RESEARCH,33,5,2129,2013
37	Esaki, M.	Natl Canc Ctr, Hepatobiliary & Pancreat Surg Div, Tokyo, Japan;	Left hepatic trisectionectomy for advanced perihilar cholangiocarcinoma	BRITISH JOURNAL OF SURGERY,100,6,801,2013
38	Katanasaka, Yasufumi	Natl Canc Ctr, Shien Lab, Chuo Ku, Tokyo, Japan;	Epidermal growth factor receptor variant type III markedly accelerates angiogenesis and tumor growth via inducing c-myc mediated angiopoietin-like 4 expression in malignant glioma	MOLECULAR CANCER,12,,,2013
39	Suzuki, H.	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	Is endoscopic submucosal dissection an effective treatment for operable patients with clinical submucosal invasive early gastric cancer?	ENDOSCOPY,45,2,93,2013

40	Takayasu, Kenichi	Natl Canc Ctr, Dept Diagnost Radiol, Tokyo 1040045, Japan	Transcatheter Arterial Chemoembolization for Unresectable Hepatocellular Carcinoma: Recent Progression and Perspective	ONCOLOGY,84,,28,2013
41	Shimma, Shuichi	Natl Canc Ctr, Div Translat Res, Exploratory Oncol Res & Clin Trial Ctr, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Alternative two-step matrix application method for imaging mass spectrometry to avoid tissue shrinkage and improve ionization efficiency	JOURNAL OF MASS SPECTROMETRY,48,12,1285,2013
42	Nakadate, Yusuke	Natl Canc Ctr, Shien Lab, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Silencing of poly(ADP-ribose) glycohydrolase sensitizes lung cancer cells to radiation through the abrogation of DNA damage checkpoint	BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS,441,4,793,2013
43	Yoshio, Kotaro	Natl Canc Ctr, Dept Radiat Oncol, Tokyo 1040045, Japan;	Inverse planning for combination of intracavitary and interstitial brachytherapy for locally advanced cervical cancer	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH,54,6,1146,2013
44	Hara, Tomohiko	Natl Canc Ctr, Div Urol, Tokyo 1040045, Japan;	Ability of preoperative 3.0-Tesla magnetic resonance imaging to predict the absence of side-specific extracapsular extension of prostate cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY,20,10,993,2013
45	Watanabe, T.	Natl Canc Ctr, Div Hematol, Tokyo 1040045, Japan;	Phytohemagglutinin-induced IL2 mRNA in whole blood can predict bortezomib-induced peripheral neuropathy for multiple myeloma patients	BLOOD CANCER JOURNAL,3,,2013
46	Sekiguchi, Masau	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Favorable long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for locally recurrent early gastric cancer after endoscopic resection	ENDOSCOPY,45,9,708,2013
47	Ikeda, Masafumi	Natl Canc Ctr, Hepatobiliary & Pancreat Oncol Div, Tokyo, Japan;	A multi-institutional phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,72,2,463,2013
48	Ishida, Michihiro	Natl Canc Ctr, Gastr Surg Div, Tokyo, Japan;	Neuroendocrine Carcinoma of the Stomach Morphologic and Immunohistochemical Characteristics and Prognosis	AMERICAN JOURNAL OF SURGICAL PATHOLOGY,37,7,949,2013
49	Odagaki, Tomoyuki	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan	What is the accuracy of autofluorescence imaging in identifying non-polypoid colorectal neoplastic lesions when reviewed by trainees? A pilot study	DIGESTIVE ENDOSCOPY,25,4,428,2013

50	Shimizu, Chikako	Natl Canc Ctr, Breast & Med Oncol Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Physicians' knowledge, attitude, and behavior regarding fertility issues for young breast cancer patients: a national survey for breast care specialists	BREAST CANCER,20,3,230,2013
51	Asahina, Hajime	Natl Canc Ctr, Div Internal Med & Thorac Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Safety and tolerability of AZD8055 in Japanese patients with advanced solid tumors; a dose-finding phase I study	INVESTIGATIONAL NEW DRUGS,31,3,677,2013
52	Tanaka, R.	Natl Canc Ctr, Dept Dermatol Oncol, Tokyo, Japan;	Human epidermal growth factor receptor 2 protein overexpression and gene amplification in extramammary Paget disease	BRITISH JOURNAL OF DERMATOLOGY,168,6,1259,2013
53	Sone, Miyuki	Natl Canc Ctr, Dept Diagnost Radiol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Job satisfaction, income, workload, workplace, and demographics of Japanese radiologists in the 2008 survey	JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY,31,5,364,2013
54	Kawano, Akiko	Natl Canc Ctr, Breast & Med Oncol Div, Chuou Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Prognostic factors for stage IV hormone receptor-positive primary metastatic breast cancer	BREAST CANCER,20,2,145,2013
55	Maeshima, Akiko M.	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Lab, Tokyo 1040045, Japan;	Follow-up Data of 10 Patients With B-cell Non-Hodgkin Lymphoma With a CD20-negative Phenotypic Change After Rituximab-containing Therapy	AMERICAN JOURNAL OF SURGICAL PATHOLOGY,37,4,563,2013
56	Nakamichi, Shinji	Natl Canc Ctr, Div Internal Med & Thorac Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	Successful EGFR-TKI Rechallenge of Leptomeningeal Carcinomatosis after Gefitinib-induced Interstitial Lung Disease	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,4,422,2013
57	Oguro, Seiji	Natl Canc Ctr, Hepatobiliary & Pancreat Surg Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Perioperative and long-term outcomes after pancreaticoduodenectomy in elderly patients 80 years of age and older	LANGENBECKS ARCHIVES OF SURGERY,398,4,531,2013
58	Arita, Hideyuki	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurg & Neurooncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Management of glioblastoma in an NF1 patient with moyamoya syndrome: a case report	CHILDS NERVOUS SYSTEM,29,2,341,2013
59	Asaga, Sota	Natl Canc Ctr, Breast Surg Div, Tokyo 1040045, Japan;	Prognostic Factors for Triple-Negative Breast Cancer Patients Receiving Preoperative Systemic Chemotherapy	CLINICAL BREAST CANCER,13,1,40,2013

60	Shibui, Soichiro	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurg & Neurooncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Randomized trial of chemoradiotherapy and adjuvant chemotherapy with nimustine (ACNU) versus nimustine plus procarbazine for newly diagnosed anaplastic astrocytoma and glioblastoma (JCOG0305)	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,71,2,511,2013
61	Jimbo, Kenjiro	Natl Canc Ctr, Breast Surg Div, Tokyo, Japan;	Sentinel and nonsentinel lymph node assessment using a combination of one-step nucleic acid amplification and conventional histological examination	BREAST,22,6,1194,2013
62	Ogawa, Kohei	Natl Canc Ctr, Gastrointestinal Oncol Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	A retrospective analysis of periodontitis during bevacizumab treatment in metastatic colorectal cancer patients	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,18,6,1020,2013
63	Terazawa, Tetsuji	Natl Canc Ctr, Gastrointestinal Med Oncol Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	Impact of adding cisplatin to S-1 in elderly patients with advanced gastric cancer	JOURNAL OF CANCER RESEARCH AND CLINICAL ONCOLOGY,139,12,2111,2013
64	Fuji, Shigeo	Natl Canc Ctr, Hematopoiet Stem Cell Transplant Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	Reduced-intensity conditioning regimen with low-dose ATG-F for unrelated bone marrow transplant is associated with lower non-relapse mortality than a regimen with low-dose TBI: a single-center retrospective analysis of 103 cases	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY,98,5,608,2013
65	Horinouchi, Hidehito	Natl Canc Ctr, Div Thorac Oncol, Tokyo 1040045, Japan	Short Hydration in Chemotherapy Containing Cisplatin ( $\geq 75$ mg/m <sup>2</sup> ) for Patients with Lung Cancer: A Prospective Study	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,11,1105,2013
66	Inaba, Koji	Natl Canc Ctr, Dept Radiat Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Results of radical radiotherapy for squamous cell carcinoma of the eyelid	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH,54,6,1131,2013
67	Kikuta, Kazutaka	Natl Canc Ctr, Div Orthoped Surg, Tokyo, Japan;	An Analysis of Factors Related to Recurrence of Myxofibrosarcoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,11,1093,2013
68	Maeshima, Akiko Miyagi	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Lab, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Prognostic implications of histologic grade and intensity of Bcl-2 expression in follicular lymphomas undergoing rituximab-containing therapy	HUMAN PATHOLOGY,44,11,2529,2013
69	Miyamoto, Shimpei	Natl Canc Ctr, Div Plast & Reconstruct Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Free descending genicular artery perforator flap harvested with the free-style approach: A case report	JOURNAL OF PLASTIC RECONSTRUCTIVE AND AESTHETIC SURGERY,66,11,1604,2013

70	Murakami, Naoya	Natl Canc Ctr, Dept Gynecol Oncol, Tsukiji Chuo Ku, Tokyo, Japan;	Radiation Therapy for Stage IVA Cervical Cancer	ANTICANCER RESEARCH,33,11,4989,2013
71	Sofue, Keitaro	Natl Canc Ctr, Div Diagnost Radiol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Flow confirmation study for central venous port in oncologic outpatient undergoing chemotherapy: Evaluation of suspected system-related mechanical complications	EUROPEAN JOURNAL OF RADIOLOGY,82,11,E691,2013
72	Inaba, Koji	Natl Canc Ctr, Dept Radiat Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Increased risk of gastric adenocarcinoma after treatment of primary gastric diffuse large B-cell lymphoma	BMC CANCER,13,,,2013
73	Nakamura, Fumihiko	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	A case of rectal tumor in which the shape altered with regression in short period	BMC GASTROENTEROLOGY,13,,,2013
74	Fukushima, Shintaro	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	A case of more than 20 years survival with glioblastoma, and development of cavernous angioma as a delayed complication of radiotherapy	NEUROPATHOLOGY ,33,5,576,2013
75	Kurosawa, Saiko	Natl Canc Ctr, Stem Cell Transplantat Div, Tokyo, Japan;	Prognosis of patients with core binding factor acute myeloid leukemia after first relapse	HAEMATOLOGICA,98,10,1525,2013
76	Momota, Hiroyuki	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurg & Neurooncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	Secondary hematological malignancies associated with temozolomide in patients with glioma	NEURO-ONCOLOGY,15,10,1445,2013
77	Ohno, Makoto	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurg & Neurooncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Secondary glioblastomas with IDH1/2 mutations have longer glioma history from preceding lower-grade gliomas	BRAIN TUMOR PATHOLOGY,30,4,224,2013
78	Abe, Seiichiro	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	A Retrospective Study of 5-year Outcomes of Radiotherapy for Gastric Mucosa-associated Lymphoid Tissue Lymphoma Refractory to Helicobacter pylori Eradication Therapy	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,9,917,2013
79	Kurosawa, S.	Natl Canc Ctr, Stem Cell Transplantat Div, Tokyo 1040045, Japan;	Recent decrease in non-relapse mortality due to GVHD and infection after allogeneic hematopoietic cell transplantation in non-remission acute leukemia	BONE MARROW TRANSPLANTATION, 48,9,1198,2013

80	Miyamoto, Shimpei	Natl Canc Ctr, Div Plast & Reconstruct Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Vastus Lateralis Muscle Flaps for Monitoring Buried Anterolateral Thigh Flaps	JOURNAL OF CRANIOFACIAL SURGERY,24,5,1739, 2013
81	Murakami, N.	Natl Canc Ctr, Dept Radiat Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Radiation therapy for primary vaginal carcinoma	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH,54,5,931, 2013
82	Kawabata, Hiroyuki	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Bone metastasis from early gastric cancer following non-curative endoscopic submucosal dissection	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY,19,30,5016,2013
83	Kuroda, Yuuki	Natl Canc Ctr, Dept Radiat Oncol, Tokyo, Japan;	Acute Radiation Esophagitis Caused by High-dose Involved Field Radiotherapy with Concurrent Cisplatin and Vinorelbine for Stage III Non-small Cell Lung Cancer	TECHNOLOGY IN CANCER RESEARCH & TREATMENT,12,4,333,2013
84	Kondo, Shunsuke	Natl Canc Ctr, Div Med Oncol, Tokyo, Japan;	Glycemia Control Using A1C Level in Terminal Cancer Patients with Preexisting Type 2 Diabetes	JOURNAL OF PALLIATIVE MEDICINE,16,7,790,2013
85	Lin, Feiyue	Natl Canc Ctr, Div Musculoskeletal Oncol, Tokyo, Japan;	Massive ossification around the prosthesis after limb salvage treatment for osteosarcoma	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC SCIENCE,18,4,667,2013
86	Maeshima, Akiko M.	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Lab, Tokyo, Japan;	Clinicopathological prognostic indicators in 107 patients with diffuse large B-cell lymphoma transformed from follicular lymphoma	CANCER SCIENCE,104,7,952,2013
87	Narita, Yoshitaka	Natl Canc Ctr, Dept Neurosurgery & Neurooncol, Tokyo 1040045, Japan	Current Knowledge and Treatment Strategies for Grade II Gliomas	NEUROLOGIA MEDICO-CHIRURGICA,53,7,429,2013
88	Nonaka, Satoru	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in the remnant stomach after gastrectomy	GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY,78,1,63,2013
89	Otsuka, Taiga	Natl Canc Ctr, Hepatobiliary & Pancreat Oncol Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Gemcitabine in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm With an Associated Invasive Carcinoma of the Pancreas	PANCREAS,42,5,889, 2013



90	Hori, Natsuko	Natl Canc Ctr, Div Pharm, Tokyo 1040045, Japan;	Reasons for avoidance of bevacizumab with first-line FOLFOX for advanced colorectal cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,18,3,435,2013
91	Kato, Ken	Natl Canc Ctr, Gastrointestinal Oncol Div, Tokyo 1040045, Japan;	Phase II Study of Concurrent Chemoradiotherapy at the Dose of 50.4 Gy with Elective Nodal Irradiation for Stage III Esophageal Carcinoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,6,608,2013
92	Sakamoto, T.	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo, Japan	Clinicopathological features of colorectal polyps: evaluation of the "predict, resect and discard" strategies	COLORECTAL DISEASE,15,6,E295,2013
93	Sakamoto, Taku	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan	How often should we perform surveillance colonoscopy after surgery for colorectal cancer?	INTERNATIONAL JOURNAL OF COLORECTAL DISEASE,28,6,835,2013
94	Sekiguchi, Masau	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo, Japan;	Risk factors for lymphatic and venous involvement in endoscopically resected gastric cancer	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY,48,6,706,2013
95	Watanabe, Shun-ichi	Natl Canc Ctr, Div Thorac Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Results of T4 Surgical Cases in the Japanese Lung Cancer Registry Study Should Mediastinal Fat Tissue Invasion Really be Included in the T4 Category?	JOURNAL OF THORACIC ONCOLOGY,8,6,759,2013
96	Odagaki, Tomoyuki	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Small undifferentiated intramucosal gastric cancer with lymph-node metastasis: Case report	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY,19,20,3157,2013
97	Iwasa, Satoru	Natl Canc Ctr, Tokyo, Japan	Ring-Enhancing Lesion Associated With Radiation-Induced Liver Disease	JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,31,14,E243,2013
98	Miyake, Mototaka	Natl Canc Ctr, Dept Diagnost Radiol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Comparative performance of a primary-reader and second-reader paradigm of computer-aided detection for CT colonography in a low-prevalence screening population	JAPANESE JOURNAL OF RADIOLOGY,31,5,310,2013
99	Oda, Ichiro	Natl Canc Ctr, Endoscopy Div, Tokyo 1040045, Japan;	Lymph-node metastasis in surgical resection of intramucosal esophageal adenocarcinoma	DIGESTIVE ENDOSCOPY,25,,177,2013

100	Oyama, Mayumi	Natl Canc Ctr, Dept Pathol & Clin Lab, Tokyo 1040045, Japan;	Prognostic Impact of Pleural Invasion in 1488 Patients with Surgically Resected Non-small Cell Lung Carcinoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,5,540,2013
101	Takayasu, Kenichi	Natl Canc Ctr, Dept Diagnost Radiol, Tokyo 1040045, Japan;	Clinical implication of hypovascular hepatocellular carcinoma studied in 4,474 patients with solitary tumour equal or less than 3cm	LIVER INTERNATIONAL,33,5,762,2013
102	Yunokawa, Mayu	Natl Canc Ctr, Dept Breast & Med Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	A pilot feasibility study for cisplatin plus S-1 for the treatment for advanced or recurrent cervical cancer	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,71,5,1369,2013
103	Hiramoto, Nobuhiro	Natl Canc Ctr, Dept Hematol, Tokyo 1040045, Japan;	Ewing Sarcoma Arising After Treatment of Diffuse Large B-cell Lymphoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,4,417,2013
104	Nagatsuma, Akiko Kawano	Natl Canc Ctr, Div Breast & Med Oncol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Impact of recent parity on histopathological tumor features and breast cancer outcome in premenopausal Japanese women	BREAST CANCER RESEARCH AND TREATMENT,138,3,941,2013
105	Oya, Hisaharu	Natl Canc Ctr, Div Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Mandatory Palliative Care Education for Surgical Residents: Initial Focus on Teaching Pain Management	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,2,170,2013
106	Sofue, Keitaro	Natl Canc Ctr, Dept Diagnost Radiol, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Life-threatening Cerebral Edema Caused by Acute Occlusion of a Superior Vena Cava Stent	CARDIOVASCULAR AND INTERVENTIONAL RADIOLOGY,36,1,272,2013
107	Akashi-Tanaka, Sadako	Natl Canc Ctr, Div Breast Surg, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	Preoperative CT evaluation of intraductal spread of breast cancer and surgical treatment	BREAST CANCER,20,1,21,2013
108	Hashimoto, Hironobu	Natl Canc Ctr, Div Pharm, Chuo Ku, Tokyo 1040045, Japan;	A Double-blind, Placebo-controlled Study of the Safety and Efficacy of Vitamin K1 Ointment for the Treatment of Patients with Cetuximab-induced Acneiform Eruption	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,43,1,92,2013
109	Kobayashi, Saori	Natl Canc Ctr, Chuo Ku, Div Pathol & Clin Labs, Tokyo 1040045, Japan;	Pulmonary neuroendocrine tumors with nuclear inclusion	PATHOLOGY RESEARCH AND PRACTICE,209,9,574,2013

110	Lin, Feiyue	Natl Canc Ctr, Div Musculoskeletal Oncol, Tokyo 1040045, Japan;	Minimally invasive solid long segmental fixation combined with direct decompression in patients with spinal metastatic disease	INTERNATIONAL JOURNAL OF SURGERY,11,2,173,2013
111	Miyamoto, Shimpei	Natl Canc Ctr, Div Plast & Reconstruct Surg, Tokyo 1040045, Japan;	Flow-through fibula flap using soleus branch as distal runoff: A case report	MICROSURGERY,33,1,60,2013
112	Okazaki, Shunsuke	Natl Canc Ctr, Gastrointestinal Oncol Div, Tokyo, Japan;	A feasibility study of outpatient chemotherapy with S-1+cisplatin in patients with advanced gastric cancer	GASTRIC CANCER,16,1,41,2013
合計112				合計112

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の運営方法、審査手順、記録の保管等について定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 COI管理方針、委員会体制、審査手順（合議、書面）、記録の保管、について定めている。 必要時指導を行うことも含めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 ※その他、規定に基づき、 書面審査を3回実施した。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容 研究倫理原則、被験者保護、研究における個人情報保護、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」解説	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

がん専門修練医・・・レジデント正規コース研修修了、またはこれに相当する学識を有し、5年以上の臨床経験を有する医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践する。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度である。

正規レジデント・・・2年以上の臨床経験を有する者を対象に、複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指す。研修年限は3年で、我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事する。日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度である。

短期レジデント・・・がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応することを目的とした研修制度である。研修時期は4月、7月、10月、1月から選択可能であり、研修期間は診療科により異なるが、最短で3ヶ月、最長で2年までである。

2 研修の実績

研修医の人数	141.9 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
成田 善孝	脳脊髄腫瘍科	科長	23 年	
鈴木 茂伸	眼腫瘍科	科長	21 年	
吉本 世一	頭頸部腫瘍科	科長	23 年	
宮本 慎平	形成外科	科長	13 年	
木下 貴之	乳腺外科	科長	26 年	
田村 研治	乳腺・腫瘍内科	科長	22 年	
浅村 尚生	呼吸器外科	科長	31 年	
大江 裕一郎	呼吸器内科	科長	30 年	
斎藤 豊	内視鏡科	科長	22 年	
日月 裕司	食道外科	科長	35 年	
片井 均	胃外科	科長	32 年	
金光 幸秀	大腸外科	科長	24 年	
朴 成和	消化管内科	科長	27 年	
島田 和明	肝胆膵外科	科長	32 年	
奥坂 拓志	肝胆膵内科	科長	24 年	
藤元 博行	泌尿器・後腹膜腫瘍科	科長	26 年	
池田 俊一	婦人腫瘍科	医長	28 年	
中馬 広一	骨軟部腫瘍科	科長	35 年	
山崎 直也	皮膚腫瘍科	科長	29 年	
飛内 賢正	血液腫瘍科	科長	38 年	
福田 隆浩	造血幹細胞移植科	科長	25 年	
小川 千登世	小児腫瘍科	医長	24 年	
佐藤 哲文	麻酔・集中治療科	科長	25 年	
里見 絵理子	緩和医療科	科長	20 年	
清水 研	精神腫瘍科	科長	16 年	
荒井 保明	放射線診断科	科長	35 年	
伊丹 純	放射線治療科	科長	33 年	
平岡 伸介	病理科	副科長	23 年	
山本 昇	先端医療科	科長	23 年	
福田 治彦	多施設臨床試験支援センター	センター長	27 年	
上野 尚雄	歯科	医長	17 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・薬剤師レジデント研修・・・がん薬物療法に関連する病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成することを目的としている。研修期間は3年で、指導薬剤師のもとに薬剤業務や病棟業務に従事する。

・がん専門薬剤師研修・・・国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、がん患者の薬学的管理介入や臨床薬学研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門薬剤師を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導薬剤師のもとで高度な知識・技術の習得・開発に努め、患者の臨床薬剤業務に従事する。

・看護部の研修については別紙の通り。

・研修の期間・実施回数

・薬剤師レジデント研修・・・3年間　・がん専門薬剤師研修・・・2年間

・研修の参加人数

・薬剤師レジデント研修・・・在籍者16名（平成26年3月31日現在）

・がん専門修練薬剤師については、平成26年度より運用開始。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

任意研修制度・受託実習制度と言う研修制度があり、他の医療機関に所属する医療関係者の受け入れを行っている。対象者は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士等であり、医学生や看護学生等の受け入れも行っている。

・研修の期間・実施回数

研修期間・・・1日から1年間と幅広く設定し、1年以上の延長も可能である。

・研修の参加人数

平成25年度で新たに受け入れた医療従事者は約80名である。その他、学生等の受け入れを約280名行った。

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。



## H26年度 看護部院内教育プログラム

カテゴリ	教育・研修名	目標・目的	内容	日程	対象者	出席人数
がん看護専門教育/基礎コース	がん看護概論	<b>【目的】</b> がん患者とその家族の特徴を踏まえた看護の役割を認識する <b>【目標】</b> 1) がんの特徴と罹患に伴う患者・家族の身体、心理、社会的役割の変化を知る 2) がん患者・家族の全人的苦痛を捉える意味を知る 3) がん患者・家族に必要な看護実践に意欲を示す	講義	2014.4.4(金) 13:00～15:00	レベル I 新人	53名
ベーシック教育	基礎看護技術① ・輸液ポンプの取扱・移動・移送の介助 ・バイタルサインの測定	<b>【目的】</b> 当院において共通して必要な看護技術とその手順を理解し、配属部署の業務に適應するための基盤を作る <b>【目標】</b> 1) 輸液ポンプの機能を知り、看護手順に沿って正しく操作することができる 2) 輸液ポンプの使用基準について知る 3) 輸液ポンプの違いや正しい操作を知る 4) 患者に合った移動介助方法を選択することの必要性を理解できる 5) 患者の移動介助における危険性について考えることができる 6) 移動介助中に患者のプライバシーを配慮することができる 7) バイタルサインを正しく測定できる	講義 演習	2014.4.8(火) 9:00～16:00	レベル I 新人	38名
ベーシック教育	基礎看護技術② ・与薬	<b>【目的】</b> 当院において共通して必要な看護技術とその手順を理解し、配属部署の業務に適應するための基盤を作る <b>【目標】</b> 1) 与薬における5つの確認項目と指差し・声出し確認の重要性が理解できる 2) 間違いやすい薬剤の存在を知る 3) どのような状況で誤薬が起こりやすいかを知る 4) 演習において与薬における5つの確認項目を指差し・声だし確認することができる 5) 正しい看護手順を理解し、指導を受けながら与薬の演習を行うことができる	講義 演習	2014.4.15(火) 9:00～16:00	レベル I 新人	38名
ベーシック教育	基礎看護技術③ ・静脈血採血 ・簡易血糖検査	<b>【目的】</b> 当院において共通して必要な安吾技術とその手順を理解し、配属部署の業務に適應するための基盤を作る <b>【目標】</b> 1) 静脈血採血の目的と必要な知識(静脈の解剖、採血に伴う有害事象のリスク、必要物品、針の取り扱いなど)を理解できる 2) 静脈血採血に適した部位を選択することができる 3) 指導を受けながら静脈血採血を実施できる 4) 簡易血糖検査の目的と留意事項を理解できる 5) 指導を受けながら、簡易血糖検査を実施できる	講義 演習	2014.4.22(火) 9:00～16:00	レベル I 新人	38名
ベーシック教育	1か月振り返り	<b>【目的】</b> 現在の自己の状況を客観的に捉え、課題を明確にできる <b>【目標】</b> 1) 1ヶ月を振り返り、現在困っていること・悩みを表現できる 2) グループメンバーの意見に共感することができる 3) 現在の自分の課題について指導者と話し合えることができる	グループワーク	2014.5.13(火) 13:30～15:30	レベル I 新人	38名
ベーシック教育	コミュニケーション	<b>【目的】</b> 自分と患者・家族、またはスタッフとの円滑なコミュニケーションのための課題を考える <b>【目標】</b> 1) 自分と患者・家族、またはスタッフとの円滑なコミュニケーションを振り返る 2) 演習とグループワークを通し、自分のコミュニケーションの傾向を知る 3) 円滑なコミュニケーションのための自己課題を明確にし、解決策を見出せる	グループワーク	2014.6.10(火) 13:30～15:30	レベル I 新人	37名
ベーシック教育	多重課題	<b>【目的】</b> 安全・安楽な看護実践のために、多重課題を整理し、優先度を考えることができる <b>【目標】</b> 1) 演習を通し、優先度の判断・看護実践・行動を振り返ることができる 2) 安全な看護実践について、自己課題を明確にし、解決策を見出せる	デモンストレーション グループワーク 演習(ロールプレイ)	2014.7.8(火) 13:30～15:30	レベル I 新人	36名
ベーシック教育	フィジカルアセスメント	<b>【目的】</b> 患者の病態を正確に捉え、適切なアセスメントに基づいた看護を実践するための基礎知識・技術を習得する <b>【目標】</b> 1) フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する 2) 起きている現象についてアセスメントするための情報収集ができる 3) フィジカルアセスメントの基礎知識をもとに、起きている現象について助言を受けながらアセスメントできる	講義 グループワーク	2014.9.16(火) 9:00～16:00	レベル I 新人	37名

がん看護専門教育/基礎コース	がんの基礎知識	<p>【目的】 がんの疫学、予防、早期発見、病態生理に関する基礎知識と、国のがん対策について理解できる</p> <p>【目標】 1) がん罹患や死亡、生存率などの統計データの意味と見方が理解できる 2) がん予防および早期発見の重要性を述べることができる 3) がんの病理学的特徴、発がんのメカニズム、再発、転移などの特徴について知る 4) 国のがん対策、がん医療に関係する診療報酬制度、保健医療政策等について知る</p>	講義	2014.12.9(火) 9:00～12:00	レベル I 新人	35名 (予定)
がん看護専門教育/基礎コース	看護過程の展開	<p>【目的】 看護実践において看護過程を展開することができる</p> <p>【目標】 1) 看護過程の5つの段階(アセスメント、診断、計画、介入、評価)についてそれぞれ説明できる 2) 最善のケアを提供するために看護過程が重要であることを理解できる 3) 看護実践において看護過程を展開する</p>	講義	2014.12.9(火) 13:00～16:00	レベル I 新人	35名 (予定)
ベーシック教育	1年の振り返り	<p>【目的】 1年を振り返り、2年目に向けての自己の課題を明確にする</p> <p>【目標】 1) 1年を振り返り自分たちの成長や看護への思いを語ることができる 2) 互いの評価・課題の発表を聞き、共有できる 3) 次年度に向けての自己の課題を明確にできる</p>	グループワーク	2015.3.13(金) 10:00～15:00	レベル I 新人	35名 (予定)
ベーシック教育	末梢静脈注射技術認定	<p>【目的】 末梢静脈内注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得し、実施できる</p> <p>【目標】 1) 末梢静脈内注射実施における看護師の役割と責務及び実施範囲を理解できる 2) 末梢静脈内注射に必要な解剖生理の基礎知識を習得する 3) 末梢静脈内注射における薬剤に関する知識と管理を理解できる 4) 安全な末梢静脈内注射の方法がわかり実施できる</p>	講義 認定試験	2014.5.23(水) 13:30～15:30	レベル I 2年目	58名
がん看護専門教育/基礎コース	がん治療と看護	<p>【目的】 がん治療の特徴・副作用・合併症対策に関する基礎的知識を習得し、実践に活用する</p> <p>【目標】 —手術療法— 1) 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響についてアセスメントできる 2) 手術療法に伴う主な合併症の予防と術後回復を促進する援助ができる</p> <p>—化学療法— 1) 化学療法の基礎知識を習得する ・ 化学療法の特徴 ・ 抗がん剤の作用メカニズム ・ 化学療法の評価 ・ 抗がん剤の安全な取り扱いと確実な投与管理 ・ 化学療法の副作用や合併症と看護ケア 2) 化学療法による副作用や合併症とそれに伴う心身の苦痛を理解できる</p> <p>—放射線療法— 1) 放射線療法の基礎知識を習得する ・ 放射線及び放射線療法の特徴 ・ 放射線療法の治療計画と評価 ・ 放射線療法の有害事象と看護ケア ・ 放射線療法が確実かつ安全に実施されるための留意事項 2) 放射線療法による副作用とそれに伴う心身の苦痛を理解できる</p> <p>—IVR— 1) IVRの特徴とがん治療におけるIVRの意義を知る 2) IVRを受ける患者のアセスメント・有害事象対策を知り、看護師の役割の重要性を理解できる</p> <p>—内視鏡治療— 1) 内視鏡治療の基礎知識を習得する ・ 内視鏡治療の特徴 ・ がん治療における内視鏡治療の意義 ・ 内視鏡治療における合併症と看護介入</p> <p>—臨床試験— 臨床試験の特徴と流れを知り、臨床試験における看護師の役割の重要性を理解できる</p> <p>—看護過程— 1) 看護過程の5つの段階(アセスメント、診断、計画、介入、評価)についてそれぞれ説明できる 2) 最善のケアを提供するために看護過程が重要であることを理解できる</p>	講義	2014.7.1(火) 8:30～16:30	レベル I 2年目	46名

ベーシック教育	ケーススタディ	<p>【目的】 看護実践を振り返り、自己の課題を明確にする</p> <p>【目標】 1) 「がんの基礎知識」「がん治療と看護」で学んだ知識を活用し、患者の病態生理や治療についてまとめることができる 2) 看護過程を展開し、理論に基づいて考察することができる 3) 互いのケーススタディを共有し、学びを深めることができる 4) ケーススタディにおける学びから自己の課題を明確にできる</p>	事例検討 発表 グループ ワーク	2015.2.17(火)2.5 h	レベルⅠ2年 目	46名 (予 定)
ベーシック教育	リーダーシップ①(メン バーシップ)	<p>【目的】 メンバーシップを理解し、リーダーシップを発揮するための準備を行う</p> <p>【目標】 1) リーダーシップとメンバーシップの概念を理解できる 2) チームにおけるメンバーシップの重要性を理解できる 3) 自分がリーダーとなるうえでの課題を見出すことができる</p>	講義 グループ ワーク	2014.5.20(火) 13:30～15:30	レベルⅡ3年 目	39名
がん看護専門 教育/基礎 コース	サポーターケア	<p>【目的】 1) がん患者の緩和ケア、症状マネジメントに関する知識を習得し、実践に活用する 2) 患者・家族のがんと共生を支援するための考え方や方法を理解できる</p> <p>【目標】 1) 早期からの緩和ケアの重要性とトータルペインの考え方が理解できる 2) サイコオンコロジーの概要を知り、実践場面での活用を考える 3) がん性疼痛のメカニズムや影響因子、疼痛緩和方法を理解し、マネジメントについて考えることができる 4) がんサバイバーシップの考え方とその支援について説明できる 5) がん患者にとってのセルフケアの重要性と支援の方法について知る 6) サポーターケアにおける看護師の役割を理解できる</p>	講義	2014.10.7(火) 8:30～16:30	レベルⅡ3年 目	40名 程度 (予 定)
がん看護専門 教育/基礎 コース	継続看護	<p>【目的】 1) 継続看護の意義を理解し、実践できる 2) がん患者の症状マネジメントに関する知識を習得し、実践に活用する 3) 入院中からの退院・在宅療養支援の意義を理解できる 4) がん医療におけるチームアプローチの重要性を理解できる</p> <p>【目標】 1) 継続看護の必要性が理解できる 2) 患者の意思決定に関わる看護師の役割が理解できる 3) 症状出現のメカニズムと影響因子について理解できる 4) 薬物療法・非薬物療法による症状マネジメントの考え方を知る 5) 症状マネジメント(倦怠感、呼吸困難、食欲不振、リンパ浮腫、皮膚障害など)のためのアセスメントと看護計画および評価について理解できる 6) 退院・在宅療養支援が必要な患者を早期より特定する意義と看護支援のあり方を理解できる 7) 退院・在宅療養支援に向けたアセスメントの重要性が理解できる 8) がん患者の療養生活の実際が理解できる 9) 患者・家族が退院後の療養生活において支援を受けられるよう、社会資源の活用について考えることができる 10) がん医療におけるチームアプローチの重要性について説明できる 11) 多職種によるチームアプローチと看護の役割を理解できる 12) リソースとして活用可能なチーム(緩和ケアチーム、NSTなど)や専門職について説明できる</p>	講義 討議	2014.6.24(火) 8:30～16:30  事例発表会 2015.1.27(火)2h	レベルⅡ4年 目	41名
ベーシック教育	リーダーシップ②	<p>【目的】 集団の目的・目標を達成できるよう集団の特性をふまえた動機付けを行い、リーダーシップを発揮する</p> <p>【目標】 1) 集団の特性とリーダーシップの必要性について理解できる 2) 集団の目的・目標は何かを明確にする 3) 集団の目的・目標を達成するために必要なエンパワーメントについて理解できる 4) リーダーシップ理論を学び、実践に活かすことができる</p>	講義	2014.10.14(火) 14:00～16:00	レベルⅢ 卒後5～7年目	20名 程度
がん看護専門 教育/基礎 コース	がん医療と看護倫理	<p>【目的】 がん医療における倫理的課題を理解し、協力し合ってチームで倫理的課題に取り組むことができる</p> <p>【目標】 1) 看護実践における倫理の基本的な知識・態度・考え方を理解できる 2) 看護実践における倫理的課題を理解できる 3) 看護実践における倫理的課題についてチームで取り組むことができる 4) 患者の権利を理解した意思決定支援について理解できる 5) がん治療、療養過程における患者・家族の意思決定支援ができる</p>	講義 グループ ワーク 事例検討	2014.11.11(火) 8:30～12:00	レベルⅢ 卒後5～7年目	20名 程度
がん看護専門 教育/基礎 コース	臨床研究・臨床試験	<p>【目的】 がん医療における治療開発・臨床試験・研究の意義を理解できる</p> <p>【目標】 1) Evidence based medicine(EBM)の重要性を理解できる 2) がん治療の開発過程、臨床研究の過程について知る 3) 当院で実施されている臨床試験・臨床研究に関心を持ち、NCCの使命と役割を理解できる</p>	講義 グループ ワーク	2014.11.11(火) 13:00～16:00	レベルⅢ 卒後5～7年目	20名 程度

ベーシック教育	成人教育	<p>【目的】 成人学習者への効果的な指導ができる</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護職者の特徴を成人学習者の特徴と関連づけて説明できる</li> <li>2) 専門職業人としての後輩育成の必要性を述べる</li> <li>3) 教育的関わりに対する自己の課題を明らかにする</li> <li>4) 新人看護師の特徴をふまえた効果的な指導計画を立てる</li> <li>5) 成人学習者である新人看護師教育の実践プロセスを振り返り評価する</li> <li>6) 新人看護師教育における今後の課題について述べる</li> </ol>	講義 グループ ワーク	2015.1.22(木) 9:00~12:00	レベルⅢ 卒後5~7年目	20名 程度
ベーシック教育	看護を語る会	<p>【目的】 自己の看護観を大切にした看護を実践する</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実践を通して看護の役割について述べるができる</li> <li>2) 自分の考える看護を言葉で表現できる</li> <li>3) 他者と看護について語り合い、お互いを認め合うことを通して、日々の看護実践の意味づけができる</li> </ol>	グループ討 議	2014.6.4(水) 2014.10.1(水) 2015.2.4(水)  17:30~18:30	レベル共通 全看護師	10~ 20名 程度
ベーシック教育	急変患者のフィジカルアセスメントと対応	<p>【目的】 急変につながる徴候に気づき、症状をフィジカルアセスメントしたうえで、その情報を報告することができる</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各部署で起きたERコール事例あるいはそれに相当する事例(患者急変・緊急手術・ICU入室事例など)をとりあげ、急変につながる徴候の観察方法を理解できる</li> <li>2) 事例患者の状態に応じたアセスメントの視点を述べる</li> <li>3) 事例患者をもとにSBARIに沿って報告ができる</li> <li>4) 事例を通して、各病棟で今後の強化すべき課題を述べる</li> </ol>	看護単位 内の討議	2014.7.1(火) ~10.31(金)	レベル共通 全看護師	全看 護師
ベーシック教育	リフレクション	<p>【目的】 看護師が成長するうえで必要な関わりを考え実践することができる</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リフレクションの概念について理解できる</li> <li>2) リフレクションの実際とその方法について理解できる</li> <li>3) リフレクションやリフレクティブな関わりを通して後輩の成長を支援することができる</li> </ol>	講義 演習	2014.10.4(土) 9:00~12:00	レベルⅢ以上	30名 程度 (予 定)
ベーシック教育	アサーティブネス・トレーニング	<p>【目的】 アサーティブなコミュニケーションスキルを身につけ、平等な人間関係を築くことができる</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アサーティブの概念を理解する</li> <li>2) アサーティブに必要な9つの権利を理解する</li> <li>3) 自分の(ノン・)アサーティブネス傾向に気づく</li> <li>4) 日本社会における(ノン・)アサーティブネス表現を理解する</li> <li>5) 日常的に起こりうる事例を用いて、「権利が脅かされること」の意味を理解する</li> <li>6) 職場で起こり得る事例を通して、アサーティブスキルを習得する</li> </ol>	講義 演習	2014.10.9(木) 2014.10.23(木) 2014.11.20(木)  17:45~19:15	レベル共通 レベルⅢ以上	10名 程度
ベーシック教育	看護研究①臨床における課題の明確化	<p>【目的】 学会総会・学術集会等に参加することを通して、多角的な視点で看護実践を捉え、がん看護のエビデンス構築を目指した看護研究に主体的に取り組む意欲を高める</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日々の看護実践において解決したいと考える問題点や研究的に取り組んでみたいと考える事柄を明らかにする。</li> <li>2) 主体的に取り組みたい課題に関連する学会総会・学術集会等を検索し、参加する。</li> <li>3) 学会総会・学術集会等への参加を通して、計画書に取り上げた課題に関する看護研究の現状を把握し、自らの看護研究課題を明確化する</li> </ol>	学会参加 レポート	2015.4~ 2016.3	レベルⅢ 卒後5~7年目	10名 程度
がん看護専門教育/がん看護専門コース	看護研究②	<p>【目的】 関心のある看護ケアについて、文献を検索し、読み解くことで、看護研究や臨床上の看護ケアに活かせるような情報を導き出すことができる。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護研究の文献の構成について理解できる</li> <li>2) 目的とする文献を検索でき、入手することができる</li> <li>3) 文献を批判的に読み解くことができる</li> <li>4) 看護研究や臨床の看護ケアに活かせるような情報を看護単位で発表し、還元することができる</li> </ol>	講義 グループ ワーク	2014.9.18(木) 2014.10.10(金) 2014.11.6(木) 2014.12.4(木) 2014.12.22(月) 2015.2.13(金)  17:45~19:15	4年目以上	10名 程度

がん看護専門教育/がん看護専門コース	緩和ケア I	<p>【目的】 緩和ケアにおける最新の知識・技術とその実際について理解を深め、緩和ケアを必要とするがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】 1) 緩和ケアに関する基礎知識および考え方について理解できる 2) がん性疼痛マネジメントに必要な基礎知識を習得する 3) がん性疼痛マネジメントに必要な薬物療法と副作用対策について理解できる 4) がん性疼痛マネジメントにおける非薬物療法を理解できる 5) がん性疼痛マネジメントに関する事例のアセスメントし計画立案できる</p>	講義 デモンストレーション 事例検討	2014.6.8(日) 9:00~16:45  2014.6.16(月) 2014.6.25(水) 17:30~19:00	4年目以上	26名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	創傷ケア	<p>【目的】 創傷ケアに関する科学的根拠や最新の知識・技術に関する理解を深め、ケアを必要とする患者と家族に対して、質の高い看護実践ができる</p> <p>【目標】 1) 皮膚の解剖生理及び創傷治癒過程について理解できる 2) がん患者に起こりやすい症状(浮腫・黄疸など)へのスキンケアについて理解できる 3) がん患者の治療に伴うスキンケアについて理解できる 4) がん患者の開放創、ドレーン挿入中、瘻孔のケア方法について理解できる 5) 失禁時の予防的および治療的スキンケア方法について理解し、実施することができる 6) がん性創傷のケア方法について理解できる 7) 事例を用いて創傷ケアを受ける患者家族のセルフケア支援の介入について展開することができる</p>	講義 演習 レポート課題	2014.5.31(土) 9:00~16:40  2014.6.15(日) 9:00~12:10	4年目以上	25名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	がん放射線療法看護	<p>【目的】 がん放射線療法における最新の知識・技術とその実際について理解を深め、がん放射線療法を受けるがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】 1) 放射線の基礎知識を理解できる 2) がん治療における放射線療法の意義と方法について理解できる 3) がん放射線療法に伴う急性期および晩期の有害事象とその対策について理解できる 4) がん放射線療法を受ける患者の看護ケアおよびセルフケア支援を理解できる 5) 事例を用い、放射線治療計画の理解に基づく有害事象対策とセルフケア支援を計画する</p>	講義 グループワーク	2014.7.2(水) 9:00~17:20  2014.7.3(木) 8:50~16:20	4年目以上	23名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	がん化学療法看護 I	<p>【目的】 がん化学療法における最新の知識・技術とその実際について理解を深め、がん化学療法を受けるがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】 1) がん化学療法の特徴と看護師の役割について理解できる 2) がん化学療法の目的、治療計画、レジメンを理解できることの意義を述べる ことができる 3) がん化学療法薬を安全に取り扱う必要性と曝露予防方法について理解できる 4) がん化学療法を受ける患者のアセスメント項目について理解できる 5) がん化学療法薬を確実・安全に投与するための留意点について理解できる 6) がん化学療法による副作用の対策とセルフケア支援について計画できる</p>	講義 グループワーク 演習	2014.7.22(火) 9:00~16:30  2014.7.23(水) 8:30~16:00	4年目以上	28名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	がん化学療法看護 II	<p>【目的】 がん化学療法における最新の知識・技術とその実際について理解を深め、がん化学療法を受けるがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】 1) がん化学療法に用いられる薬剤の特徴と注意事項を理解できる 2) がん化学療法に用いられるレジメンのアセスメント項目について理解できる 3) レジメンを取り上げて、投与管理上の留意点、注意すべき有害反応とその予防策・対応策、セルフケア支援を計画することができる 4) がん化学療法における意思決定支援とチーム医療の重要性について考えることができる 5) がん化学療法を受ける患者と家族の看護実践において、学んだことを活用する上での自己の課題を明確にすることができる</p>	講義 グループワーク 演習	2014.7.24(木) 8:30~17:20  2014.7.25(金) 8:30~16:10	4年目以上	8名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	緩和ケア II	<p>【目的】 緩和ケアにおける最新の知識・技術とその実際について理解を深め、緩和ケアを必要とするがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】 1) トータルペインの考え方を理解し、事例をアセスメントすることができる 2) 疼痛以外の身体的苦痛とそのマネジメントについて理解できる 3) がん患者の心理反応や主な精神症状とケアの方法を理解できる 4) がん患者と家族との基本的なコミュニケーションスキルを理解できる 5) 緩和ケアにおけるリハビリテーションについて理解できる 6) 緩和ケアにおける医療連携・社会資源の活用について理解できる</p>	講義 グループワーク デモンストレーション	2014.9.10(水) 8:30~16:50  2014.9.11(木) 8:30~17:40	4年目以上	18名

がん看護専門教育/がん看護専門コース	退院支援・在宅療養支援	<p>【目的】 退院支援・在宅療養支援に関する最新の知識・技術とその実際について理解を深め、がん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する能力を養う</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) がん患者の退院支援 ・在宅療養支援の特徴とプロセスを説明できる</li> <li>2) がん患者の療養の場の特徴と意思決定支援について説明できる</li> <li>3) がん患者の退院支援 ・在宅療養支援に必要なアセスメント項目を列挙できる</li> <li>4) 退院支援 ・在宅療養支援における症状マネジメントの考え方と方法を説明できる</li> <li>5) 退院支援 ・在宅療養支援における日常生活の調整委の考え方と方法を説明できる</li> <li>6) 退院支援 ・在宅療養支援における家族ケアについて説明できる</li> <li>7) 退院支援 ・在宅療養支援で活用できる診療報酬と社会福祉資源について概説できる</li> <li>8) 退院支援 ・在宅療養支援における多職種とのチームアプローチと看護師の役割を説明できる</li> </ol>	講義 グループ ワーク	2014.10.16(木) 9:00～17:00  2014.10.17(金) 8:30～16:30	4年目以上	23名
がん看護専門教育/がん看護専門コース	臨床試験看護	<p>【目的】 臨床試験に関わるチームの一員であることを認識し、患者が安心して安全に試験治療を受けるための看護師の役割を見出す</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床試験の実施に必要な知識を習得する</li> <li>2) 臨床試験における看護師の役割を考える</li> <li>3) 臨床試験における当院の使命と実施状況を知る</li> </ol>	講義 討議 見学	2014.11.22(土) 8:30～16:30  2014.12.19(金) 18:00～19:30	4年目以上	20名程度 (予定)
がん看護専門教育/がん看護専門コース	リンパ浮腫ケア	<p>【目的】 リンパ浮腫の知識、複合的理学療法について理解を深め、リンパ浮腫予防のための指導とケアの実践に活用する</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リンパ浮腫発症のメカニズム、症状、合併症などの基礎知識が理解できる</li> <li>2) 複合的理学療法を用いたケアの根拠について説明できる</li> <li>3) リンパ浮腫発症の予防行動が指導できる</li> <li>4) リンパ浮腫に対するセルフドレナージが指導できる</li> <li>5) リンパ浮腫ケアの適応・禁忌について説明できる</li> <li>6) 終末期患者の浮腫に対する目標が設定できる</li> <li>7) 終末期患者の浮腫による苦痛緩和方法を検討できる</li> </ol>	講義 演習 事例検討	2014.10.25(土) 9:00～16:25  2014.11.5(水) 2014.11.11(火) 18:00～19:30	4年目以上	30名程度 (予定)
がん看護専門教育/がん看護専門コース	摂食・嚥下障害看護	<p>【目的】 摂食・嚥下障害に関する最新の知識・技術とその実際について理解を深め、摂食・嚥下障害看護を必要とするがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識、メカニズム、症状、合併症などの基礎知識を理解できる</li> <li>2) 患者・家族にとって食の意義、口腔ケアの方法などを理解できる</li> <li>3) 摂食・嚥下機能の検査と診断・評価法を理解できる</li> <li>4) 誤嚥性肺炎、栄養低下、脱水などを予防し、摂食・嚥下障害の増悪を防止するなどのリスク管理の方法を理解できる</li> <li>5) 摂食・嚥下訓練の方法を理解し、訓練内容を検討できる</li> <li>6) 摂食・嚥下障害のある患者の看護過程の展開ができる</li> </ol>	講義 演習 事例検討	2014.10.6(月) 2014.10.20(月) 2014.11.4(火) 2014.11.17(月) 2014.12.2(火) 2014.12.15(月) 18:00～19:30	4年目以上	30名程度 (予定)
看護管理者教育	問題解決技法	<p>【目的】 問題解決技法を習得し、看護管理の実践に活用できる</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題解決技法を学び、習得することができる</li> <li>2) 看護師長、副看護師長とともに各看護単位で問題となっていることに気づき解決方法を見出すことができる</li> <li>3) 各看護単位の問題に対し、見出した解決方法を実践することができる</li> <li>4) 各看護単位の問題に対する取り組みの評価ができる</li> </ol>	講義 グループ ワーク 発表	2014.7.19(土) 2014.7.29(土) 9:00～16:00  2014.11.7(金) 9:00～12:00  2015.2.26(木) 17:30～19:00	7年目以上かつ当院での看護師経験4年目以上相当	29名
看護管理者教育	看護管理研修「管理者のためのリーダーシップ」	<p>【目的】 看護専門職で構成される組織(看護単位)のリーダーとして、看護部の理念「患者のニーズを大切に最良のがん看護を創造し、提供する」を実現する組織を作り上げるための基礎となる考え方を理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) スタッフを育てるリーダーシップについて理解する</li> <li>2) 指示(積極的ティーチング)の方法を学び、演習で行うことができる</li> <li>3) 助言(消極的ティーチング)の方法を学び、演習で行うことができる</li> <li>4) コーチングによって自己決定を支持する方法を学び、演習で行うことができる</li> </ol>	講義 グループ ワーク	2014.6.7(土) 9:00～15:00	看護師長・副看護師長・その他希望者	64名

看護助手研修	看護助手研修①(がん患者の特徴)	<p>【目的】 看護助手としてがん患者と関わる上で必要な対応力を高める</p> <p>【目標】 1) がん患者の特徴と行われている必要なケアについて知る 2) 患者の特徴を踏まえた関わりについて考える</p>	講義 グループ ワーク	2014.5.27(火) 14:00～15:00	看護助手	29名
看護助手研修	看護助手研修②(医療安全)	<p>【目的】 医療安全についての理解を深め、安全性を考慮した業務を遂行する</p> <p>【目標】 医療安全に関する知識を学び、安全管理や医療事故防止に取り組むことができる</p>	講義 グループ ワーク	2014.11.16(火) 14:00～15:00	看護助手	30名程度 (予定)

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長・医事室長	
閲覧担当者氏名	文書管理係長・医事係長	
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課・財務経理部財務経理課医事室	
閲覧の手続の概要 『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年12月5日法律第140号)』及び『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年6月5日政令第199号)』に基づき以下の当センター規定に則り閲覧を含む開示手続きを行う。 ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開手続規程(平成22年4月1日規程第49号) ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開手数料規程(平成22年4月1日規程第48号) ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開審査基準(平成22年4月1日規程第50号) 具体的には、総務部総務課を情報公開窓口として、以下の手続きを行う。 ①開示請求者より、法人文書開示請求書(規定様式)の提出と手数料の支払いが行われる。 ②①に不備がある場合は、補正依頼公文(規定様式)を送付する。 ③請求文書の特定と開示可否の審議を行い、審議結果に応じて、法人文書開示決定通知書又は法人文書不開示決定通知書を開示請求者に送付する。 ④請求の内容により、期限の延長又は事案の移送が必要な場合は、それぞれ規定に基づき通知公文を開示請求者に送付する。 ⑤③を受け、開示請求者が開示実施を希望する場合は、規定の実施方法等申出書を提出する。 ⑥⑤の実施方法等申出書及び開示実施に係る規定手数料を受け、文書の開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>1) インフォームド・コンセントについて</li><li>2) 意識改革及び啓発を図るための教育・研修及び講演会について</li><li>3) インシデント・アクシデント報告と再発防止策の実施について</li><li>4) アクシデント発生時の対応について</li><li>5) 患者等からの医療に係る苦情・相談の対応について</li><li>6) 前述の 1) から 5) を遂行するための組織及び体制について</li><li>7) 本指針の患者・家族へ提示等での周知について</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：医療安全管理室へ報告されるインシデント・アクシデント事例について、医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。部会での検討事項を毎月開催している医療事故等防止対策委員会に報告後、決定事項を医療安全担当副院長から各部署のリスクマネージャーにリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて伝達し、所属職員に伝達・周知徹底を図っている。</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： ＜全職員研修：医療安全講演会＞ 第1回「あなたが当事者なら医療裁判？」（H25.7.16）、第2回「危機管理広報について」（H24.12.21） 延べ参加人数 2298名 年2回受講率 99.8%（DVD上映・閲覧含む） ＜その他 勉強会＞ 「MRI磁場体験研修」「一次救命処置研修」等、各部門と協力し、個別に勉強会を計7回実施</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無 ) 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程を定め、医療事故等防止対策委員会、医療安全管理部会を設置。また、各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを設置し、インシデント・アクシデント事例の報告内容の把握・検討等を行い、再発防止に努めている。</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達</li><li>医療安全ニュースの発行</li><li>職員全員参加の研修会の実施</li><li>医療安全ポケットマニュアルの年1回の更新</li><li>事例集の発行</li></ul></li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) ( 2名 ) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) ( 4名 ) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>所属職員： 専任 (2) 名、兼任 (80) 名 各部署のリスクマネージャー</li><li>活動の主な内容：医療安全管理に関する情報収集・情報提供、インシデント・アクシデントについての実態把握・分析・再発防止対策の立案・周知、医療安全に関する職員教育を実施。</li></ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

(様式第 6)

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) 無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>感染対策の基本的考え方、院内感染対策体制の整備(院内感染対策委員会、感染制御室、感染対策チーム、感染制御室長、院内感染管理者、感染制御室専任医師の設置について)、職員に対する研修に関する基本方針、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、患者等への情報提供と説明に関する基本方針、その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針について策定している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容：</p> <p>院内感染発生動向の監視と効率的な院内感染対策が実施できるように、感染制御室および感染対策チームの活動支援を行う。感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案された事項について審議、決定を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>＜全職員研修：院内感染対策講演会＞</p> <p>①『感染管理の基本』(H25. 7. 12) ②『感染症診療の原則』(H25. 11. 6)</p> <p>延べ参加人数 2, 300名 年2回受講率100%</p> <p>講演会・DVD上映会の他に、未受講者にはDVD貸出を行った。</p> <p>その他、セレウス菌アウトブレイク後の対策として「血流感染対策勉強会」を開催し、医師・看護師全員に手技の注意点等を周知した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 (有) 無 )</p> <p>院内感染発生時は、微生物検査室よりすみやかに関連部署に報告が行くように、連絡網による体制を整えている。</p> <p>アウトブレイク発生時には病院長徴集による臨時院内感染対策委員会を開催して、アウトブレイクを止めて、再発を予防するための方策を検討し、勧告する。臨時のリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議を開催し、各部署の責任者に勧告を通知する。紙面による勧告内容の周知と徹底を行い、各科長、部門責任者の責任における読了チェックによって、全職員に周知できているかどうかを確認している。</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染症を病院内に拡げないため、他所からの持ち込みや院内での感染拡大防止の観点から全職員に対する流行性ウイルス性疾患についてワクチンポリシーを整えた。流行性ウイルス性疾患抗体検査結果及びワクチン接種状況を整理し、全職員のEIA価把握と基準を満たさない職員のワクチン接種推奨を推し進めている。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
・研修の主な内容：医薬品の適正使用、麻薬や抗がん剤等の取り扱い、バイオシミラーについてなど	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有)・無 ) ・ 業務の主な内容：常備薬(規制医薬品等)の保管・管理状況調査及び各部署による自己評価	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 職業曝露防止や適正な無菌混合調製を目的とした、休日体制下での抗がん剤無菌調製業務の実施 ・ 病棟薬剤師による各病棟への医薬品安全使用に関する情報周知の徹底化 ・ 安全性速報(ブルーレター)の院内周知の徹底化 ・ 薬剤部HP・コンテンツの改善 ・ 投与時に注意が必要な薬剤に対する注意喚起を目的とした薬袋のコメント表記の工夫 ・ 規格が複数ある薬剤における規格の取り違え防止を目的とした表示名称の工夫 ・ 同種同効薬の採用に際し、安全使用を目的として、力価・包装等の院内資料の作成と配布 ・ 調剤(分包紙等)の文字サイズとレイアウトを医療安全の観点から変更 ・ ハイリスク薬に対する注意喚起を目的として処方箋表記と、院内配置薬の表示を変更 ・ 後発医薬品への切り替えにあたり、安全使用を目的として、医薬品の表示名に先発品名を付記して表示を工夫	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

放射線部門

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3～4回
・ 研修の主な内容： 新規導入医療機器設置後、定期点検後、バージョンアップ後について、使用方法、注意点、管理方法について実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有) ・ 保守点検の主な内容： 職員による日常点検実施と、メーカーによる定期点検の計画・実施・報告	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： メーカーによる定期点検の実施・職員による日常点検状況の把握 修理・故障報告件数・内容のデータ管理 使用マニュアルの改訂 勉強会の実施 PMDAへの報告 医療安全管理室と連携し、MRI磁場体験の開催	

臨床検査部

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年4～5回
・ 研修の主な内容：臨床検査部 1) 生化学用自動分析装置JCA-BM6070 4日間基礎コース：装置仕様・概要・構成、測定原理、操作方法（起動・洗浄・精度管理等） 各種条件設定、保守点検 2) 遠心型血液成分分離装置スペクトラオプティア 1日間適性使用トレーニング 目的：末梢血幹細胞採取、顆粒球採取、骨髓からの単核球分離などの手技の習熟 研修内容：講義（原理、機器操作、トラブルシューティング等）、実技講習	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有)・無)	

<ul style="list-style-type: none"> <li>保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>IS015189規格に準じたメーカーによる定期点検計画の実施・作業報告書の保管</p>
<p>③ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常点検の実施</li> <li>2) 定期点検の実施</li> <li>3) 機器操作手順書の整備・改訂</li> <li>4) 日当直業務実施のためのトレーニング</li> </ol>

臨床工学技士

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年101回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：</li> </ul> <p>除細動器、人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置、シリンジ・輸液ポンプ、その他新規導入機器についての使用方法、注意点、管理方法について</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>除細動器、人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置、電気メス、シリンジ・輸液ポンプ、モニタ類等について、機器購入時に計画を立て、臨床工学技士またはメーカーによって定期点検を実施。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>各種医療機器の稼働率調査          日常点検の実施          臨床工学技士による定期点検の実施・点検状況の把握          医療安全管理室ニュース（医療安全・感染と連携）の定期発行          修理・故障報告件数・内容のデータ管理          使用マニュアルの改訂          勉強会の実施          PMDAへの報告          PMDAホームページに掲載されている回収情報の確認</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>公益財団法人日本医療機能評価機構 平成26年3月</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

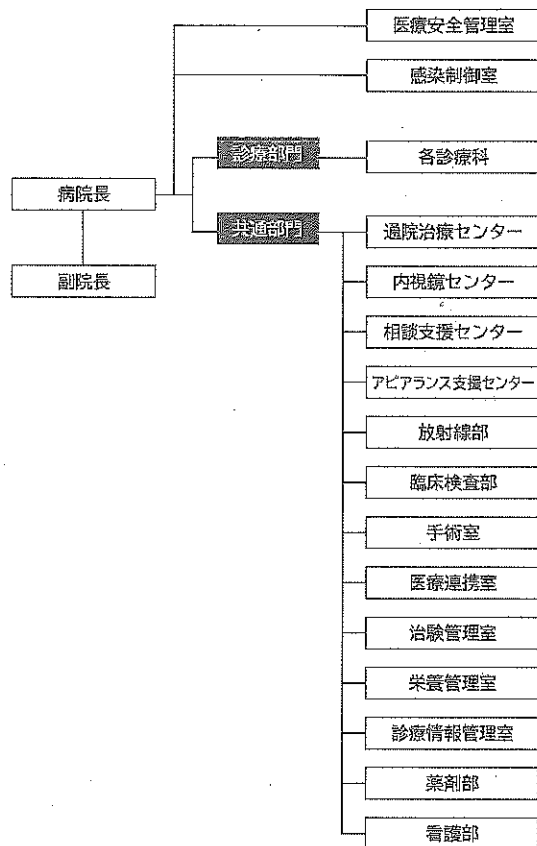
2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>・ホームページを通して、各診療科で提供している医療、先進医療の提供状況、治験の実施状況などに加え、研究成果や新たな取り組みの発表などを行い情報公開を推進した。</p> <p>・がんに関する最新の知見や研究成果、科学的根拠に基づく診断・治療法について広く国民に情報提供を行うために、プレスリリース・記者会見を開催した。</p> <p>・患者向け広報誌を年 4 回発行し、中央病院で提供している医療、実績等の情報提供を行った。</p> <p>・年報、Annual Report など、当センターの業績集を作成し、大学、研究機関、拠点病院をはじめ関係各所に提供、幅広く当センターの診療や研究活動の紹介を行った。</p>	

### 3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 主たる悪性腫瘍に対して開設されている内科・外科間の連携 ※ 組織図別添</li><li>2. 特化した治療（放射線治療、放射線診断、内視鏡センター、通院治療センター等）と各診療科との連携</li><li>3. 複数の悪性腫瘍や、患者の状態によって診療科間における協力が必要な場合の連携（転移がん、希少がん等）</li><li>4. その他</li></ol>	

組織図



診療科一覧

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 脳脊髄腫瘍科     | 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科 |
| 眼腫瘍科       | 皮膚腫瘍科            |
| 頭頸部腫瘍科     | 血液腫瘍科            |
| 形成外科       | 造血幹細胞移植科         |
| 乳腺外科       | 輸血療法科            |
| 乳腺・腫瘍内科    | 小児腫瘍科            |
| 呼吸器外科      | 総合内科・歯科・がん救急科    |
| 呼吸器内科      | 総合内科             |
| 食道外科       | 歯科               |
| 胃外科        | がん救急科            |
| 大腸外科       | 麻酔・集中治療科         |
| 消化管内科      | 緩和医療科            |
| 内視鏡科       | 精神腫瘍科            |
| 消化管内視鏡     | 放射線診断科           |
| 呼吸器内視鏡     | 放射線治療科           |
| 肝胆膵外科      | 病理・臨床検査科         |
| 肝胆膵内科      | 病理科              |
| 泌尿器・後腹膜腫瘍科 | 臨床検査科            |
| 婦人腫瘍科      |                  |

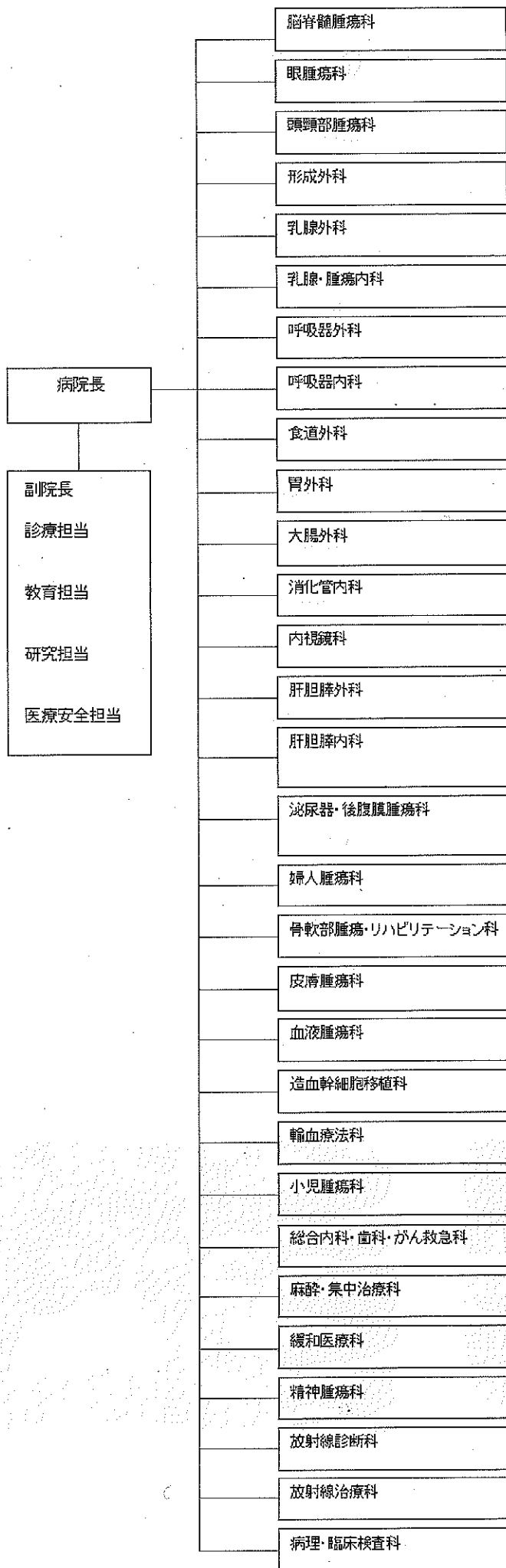
中央病院は、診断、治療において最高レベルの診療を提供するとともに、研究所と連携しての基礎研究から臨床への橋渡し研究（トランスレーショナル・リサーチ）や国内外の病院・研究機関や企業と連携しての新規診断治療法の開発と標準化のための研究、臨床試験を展開し、また、情報センターと連携して、国民への正しいがん情報の提供と適切ながん診断・治療法均てん化のための情報発信を行っています。

職員全員が、「患者さんにとって信頼できる医療者であること」を基本姿勢とし、加えて、日本のがん診療を担っているという高い意識をもって、日々、切磋琢磨しています。このような職員の活動のエネルギーの源は、言うまでもなく、がん患者さん、そして国民からの信頼と期待です。

がんという難敵を倒すことは、日本にとどまらず、人類全体の悲願です。日本のがん対策を担う組織として、All Activities for Cancer Patients（職員の全ての活動はがん患者のために）という言葉に胸に、全職員一丸となってさらなる向上を目指します。







- 脳脊髄腫瘍科
- 眼腫瘍科
- 頭頸部腫瘍科
- 形成外科
- 乳腺外科
- 乳腺・腫瘍内科
- 呼吸器外科
- 呼吸器内科
- 食道外科
- 胃外科
- 大腸外科
- 消化管内科
- 内視鏡科
- 肝胆膵外科
- 肝胆膵内科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科
- 婦人腫瘍科
- 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科
- 皮膚腫瘍科
- 血液腫瘍科
- 造血幹細胞移植科
- 輸血療法科
- 小児腫瘍科
- 総合内科・歯科・がん救急科
- 麻酔・集中治療科
- 緩和医療科
- 精神腫瘍科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 病理・臨床検査科

<p><b>脳脊髄腫瘍科</b> Neurosurgery and Neuro-Oncology がんの中で最も予後不良のグリオーマの制圧のために日々闘っています。</p> 	<p><b>眼腫瘍科</b> Ophthalmic Oncology 眼球内の悪性腫瘍に対する眼球温存治療を精力的に行っています。</p> 
<p><b>頭頸部腫瘍科</b> Head and Neck Surgery 頭頸部腫瘍科は機能温存と頭頸部がんの予後向上を目指しています。</p> 	<p><b>形成外科</b> Plastic and Reconstructive Surgery がん切除後に生じた欠損に対し、組織移植による再建を行っています。</p> 
<p><b>乳腺外科</b> Breast Surgery 適切な治療とともに標準治療の確立と最先端医療の開発を責務としています。</p> 	<p><b>乳腺・腫瘍内科</b> Breast and Medical Oncology 当科では、がん薬物療法や新薬治療開発に取り組んでいます。</p> 
<p><b>呼吸器外科</b> Thoracic Surgery 日本で最高水準、最大件数の肺がん外科治療を行っています！</p> 	<p><b>呼吸器内科</b> Thoracic Oncology 現在の最前の治療を提供するとともに、新たな治療法や新薬の開発を進めています。</p> 
<p><b>食道外科</b> Esophageal Surgery 食道がんの専門医として、一般病院では難しい病態にも対応します。</p> 	<p><b>胃外科</b> Gastric Surgery エビデンスに基づく、根治性とQOLを考慮した安全な胃がん治療。</p> 
<p><b>大腸外科</b> Colorectal Surgery 大腸外科では、早期がんから進行、再発大腸がんまでの治療を行います。</p> 	<p><b>消化管内科</b> Gastrointestinal Medical Oncology 経験豊富なスタッフによるきめ細やかな診療、治療開発を行います。</p> 
<p><b>内視鏡科（消化管）</b> Gastrointestinal Endoscopy 豊富な症例数に裏打ちされた世界をリードする確かな内視鏡技術。</p> 	<p><b>内視鏡科（呼吸器）</b> Respiratory and Endoscopy 迅速かつ正確な呼吸器内視鏡診断・治療を提供します。</p> 
<p><b>肝胆膵外科</b> Hepatobiliary and Pancreatic Surgery 肝胆膵高難度手術の標準化、新しい手術の開発、若手育成を目指しています。</p> 	<p><b>肝胆膵内科</b> Hepatobiliary and Pancreatic Oncology 最先端の治療を通じて患者さんの選択肢が広がる医療を提案します。</p> 
<p><b>泌尿器・後腹膜腫瘍科</b> Urology 豊富な経験と高い技術に基づいた泌尿器がん診療を行っています。</p> 	<p><b>婦人腫瘍科</b> Gynecology すべての婦人科がんに対応いたします。</p> 
<p><b>骨軟部腫瘍・リハビリテーション科</b> Orthopedic Surgery 病状に合わせた薬物治療と最適な手術放射線治療等を実施しています。</p> 	<p><b>皮膚腫瘍科</b> Dermatologic Oncology 悪性黒色腫をはじめ難治性皮膚がんの診療実績は国内随一です。</p> 
<p><b>血液腫瘍科</b> Hematology 血液腫瘍の診療と研究における世界のリーダーとして邁進します。</p> 	<p><b>造血幹細胞移植科</b> Hematopoietic Stem Cell Transplantation 一人でも多くの患者さんに完治を目指した移植を行います。</p> 
<p><b>輸血療法科</b> Transfusion Medicine 輸血・細胞治療に関して縁の下の力持ちとして診療を支えます。</p> 	<p><b>小児腫瘍科</b> Pediatric Oncology 若い命に最高の医療と療養を提供し、未来への循環を創ります。</p> 

<p><b>総合内科</b> General Internal Medicine 糖尿病や心臓・腎臓の病気があっても最善のがん治療を！</p> 	<p><b>歯科</b> Dentistry がん治療に伴うお口の合併症を予防し、治療をサポートします。</p> 
<p><b>がん救急科</b> Oncologic Emergency 政策医療としてがん救急を普及し、がんに関連した急変患者を救命します。</p> 	<p><b>遺伝相談外来</b> Genetic Counseling がんの遺伝と遺伝子に関する様々な疑問や不安の相談にお答えします。</p> 
<p><b>麻酔・集中治療科</b> Anesthesiology and Intensive Care 安心・安全な周術期管理と重症患者管理を心がけています。</p> 	<p><b>緩和医療科</b> Palliative Care 痛みなどのつらい症状を治療して、生活の向上に努めています。</p> 
<p><b>精神腫瘍科</b> Psycho-oncology がん罹患による心の悩みについて、幅広く担当いたします。</p> 	<p><b>放射線診断科</b> Diagnostic Radiology 画像診断とともに、画像を用いて「切らない治療」も行ないます。</p> 
<p><b>放射線治療科</b> Radiation Oncology 最先端の治療技術を駆使しニーズにあった最高の治療を提供します。</p> 	<p><b>病理科</b> pathology 病理科は臨床医学に密接した病理診断、研究と教育を実践します。</p> 
<p><b>臨床検査科</b> Clinical Laboratory 一般臨床から先端技術まで、皆一丸となって臨床・研究を支えます。</p> 	<p><b>通院治療センター</b> Outpatient Treatment Center 標準化された抗がん剤治療を外来で安全に施行しています。</p> 
<p><b>相談支援センター</b> Consultation, Counseling and Support Service Center 相談者の話に耳を傾け寄り添いながら、一緒に問題解決を目指します。</p> 	<p><b>アピアランス支援センター</b> Appearance Support Center 外見の臨床と研究を通して「社会に生きる」「人として生きる」を支援します。</p> 
<p><b>臨床検査部</b> Department of Clinical Laboratory 診療に不可欠な検査情報の精確かつ迅速な提供に日々努めています。</p> 	<p><b>手術室</b> Surgical Center Safe Surgery Saves Lives (安全な手術で患者さんの命を救う)。</p> 
<p><b>医療連携室</b> Physician Referral Service より多くの患者さんに、最良の治療機会を提供するため、支援をしています。</p> 	<p><b>治験管理室</b> Clinical Trial Coordination (&amp;Support) Office 新薬・新治療法開発のために治験・臨床試験の支援をしています。</p> 
<p><b>栄養管理室</b> Nutrition Management Office がん治療を栄養管理で支援し、更なる向上に取り組んでいきます。</p> 	<p><b>診療情報管理室</b> Health Information Management Office 診療記録から診療情報を作成し、患者さんにも役立つ情報を発信。</p> 
<p><b>薬剤部</b> Pharmacy 患者さんの薬物療法が安全に実施されるよう、日々努めています。</p> 	<p><b>看護部</b> Nursing 豊かな感性と確実な実践力をもって、最良のがん看護の提供に努めています。</p> 
<p><b>医療安全管理室</b> Medical Safety Management Office 日々、医療安全推進のため奮闘しております！</p> 	<p><b>感染制御室</b> Infection Control Division 院内の感染制御・教育啓発・感染に関連した医療安全にあたります。</p> 